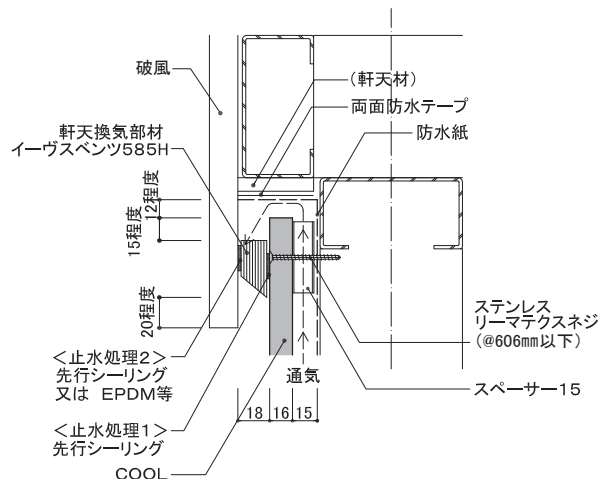
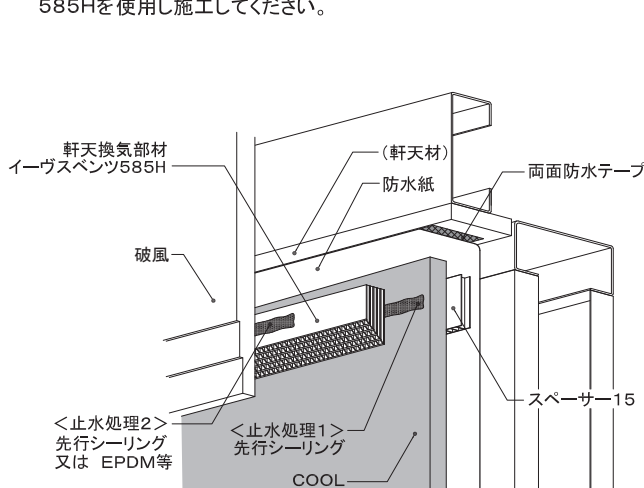


破風・パラペット部(イーヴスベンツを使用した場合)

■破風納まり例

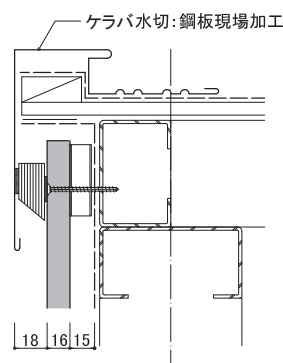
軒の出寸法が少ない破風やパラペット部分などは雨水浸入防止のため通気見切縁のかわりに、図のように、軒天換気部材: イーヴスベンツ585Hを使用し施工してください。



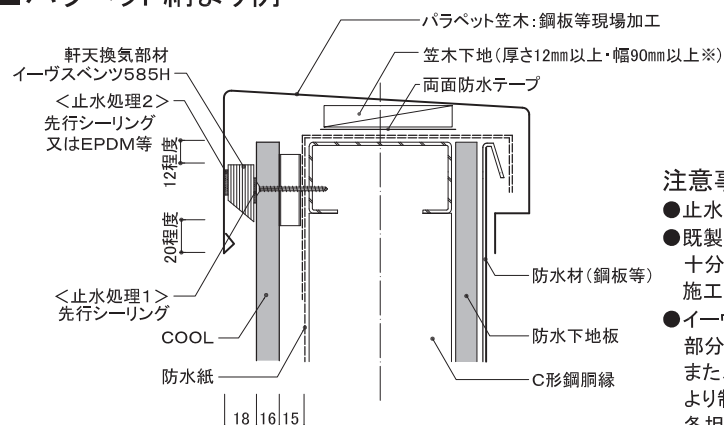
注意事項

- 軒天換気部材は片側が斜めにカットされておりますが、納まり上、部材の上下および表裏に制限はありません。
- 納まりの性質上、外壁工事が先行しますので工程手順に注意してください。
- ＜止水処理1＞は、先行シーリングとします。
- ＜止水処理2＞は、先行シーリングまたはEPDMなどとし、空き寸法に合わせて隙間のないよう施工してください。

■ケラバ納まり例



■パラペット納まり例



注意事項

- 止水処理に関しては、上記同様十分な止水処理を施してください。
- 既製アルミ笠木などは、笠木内部形状が一定でないため十分な止水処理が困難であり、被せ高さなども不足するため、施工不可となりますのでご注意ください。
- イーヴスベンツは、自治体によって延焼のおそれがある部分での使用が認められていない場合があります。また、地域により開口面積について、通気抵抗係数などにより制限される場合があります。各自治体の建築主事、各担当部局、および各金融支援機構窓口にご確認ください。併せて製造メーカー日本住環境様へご相談ください。

※笠木下地は長さ2m以下ごとに30mm以上の隙間を設けます。

■その他の施工のポイント

- イーヴスベンツの側面を完全に止水処理することが重要となります。
- イーヴスベンツの連結部分は、シーリング処理をしてください。
- イーヴスベンツおよび破風(鼻隠し)など仕上げ材の留め付けは、胴縁または躯体に届くよう留め付けてください。

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。
内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。